

山上地区の取組

山上地区有害鳥獣対策協議会
会長 我彦 正福

1

山上地区の概要



人口

1633人

738世帯

(令和2年1月末現在)

農家

77戸

農地面積

173ha

田166ha 畑7ha

(2015年農林業センサス)

基幹作物は米

山上地区

2

平成26年度の農作物被害（対策前）

被害額 213万円

被害面積 1.5ha

主な被害作物

野菜

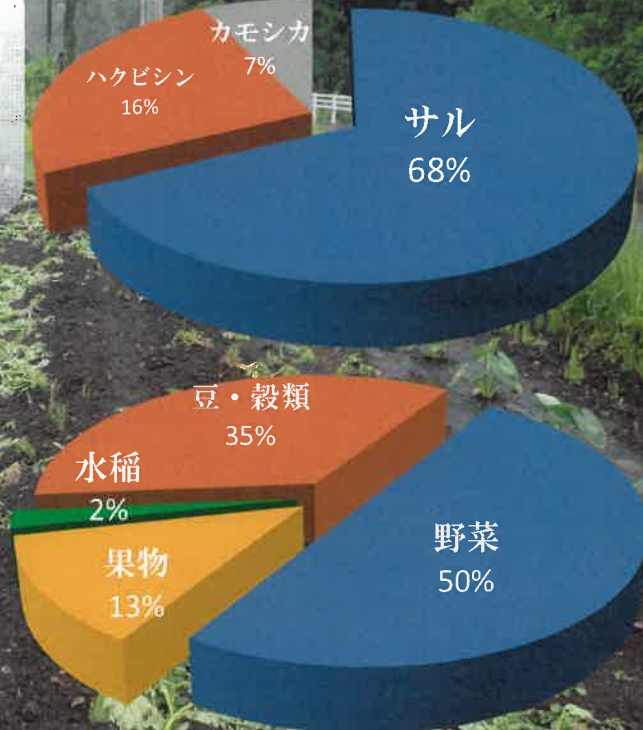
トウモロコシ、キュウリ

果樹

オウトウ(サクランボ)

豆・穀類

大豆



これまでの対策

○花火による追い払い



○猟友会によるパトロール・捕獲



○モンキードッグによる追い上げ



これまでの対策の問題点

様々な対策を講じてきたが、結果がでない。

- ↳ 何が有効か分からない。
- ↳ 疲弊、やる気の喪失。
- ↳ 諦め、依存。
- ↳ 耕作放棄。

5

地域に不足すること

- ①対策のやり方がわからない（効果のある対策）
効果が出なかったら・・・と考えると踏み出せない。
- ②確証がないので、ダメと断言できない
生ゴミを放置するとサルがくる。ホント？
近所関係もあるので、強く注意できない。
- ③地域で対策をしていない
みんなで対策しないので、被害のたらい回し。
⇒わかっているけど、変えられない

6

きっかけ

柿の木を11本伐採

⇒猿が来ない

⇒体感と気づき

⇒地域ぐるみの被害対策
(県事業) 実施へ



7

県事業で行ったこと

勉強会

何が足りないのか
何をすればいいのか



環境点検

自分を知り、相手を知る



電気柵の設置

やればできるを体感する



8

作業の様子



9

山上のルール

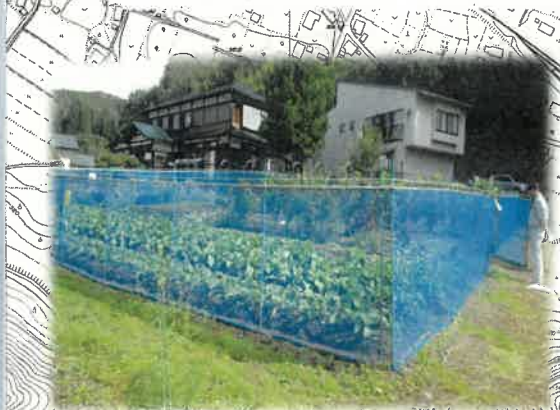
- ・設置作業、もしくはできることを行うこと
依存を防止し、当事者意識をもつこと
- ・次の人にも同じように手伝えること
顔見知りになる、技術の復習、
情報交換、助け合いの連鎖

10

電気柵設置の状況

最初の圃場

令和元年9月末現在で、40箇所以上に設置



11

次の課題

誘引物が除去されていないため、鳥獣の襲来がやまない

環境整備

鳥獣に農地等への忌避条件付けがされていないため、襲来が繰り返される

被害防除

個体数管理

個体数の増加等により、対策効果が低減する

12

地区内の放置果樹の状況



作業の様子



放置果樹対策（伐採）

	H28年	H29年	H30年	R1年 (予定)	R2年 (予定)
放任果樹の 伐採本数	0 本	52 本	108 本	80 本	50 本
放任果樹の数	410 本	358 本	250 本	170 本	120 本
地域が餌付して いるサルの頭数	108 頭	95 頭	66 頭	45 頭	32 頭

放任果樹の本数 = 地域で餌付けするサルの頭数

15

平成27年度の農作物被害（対策後）

被害額 116万円

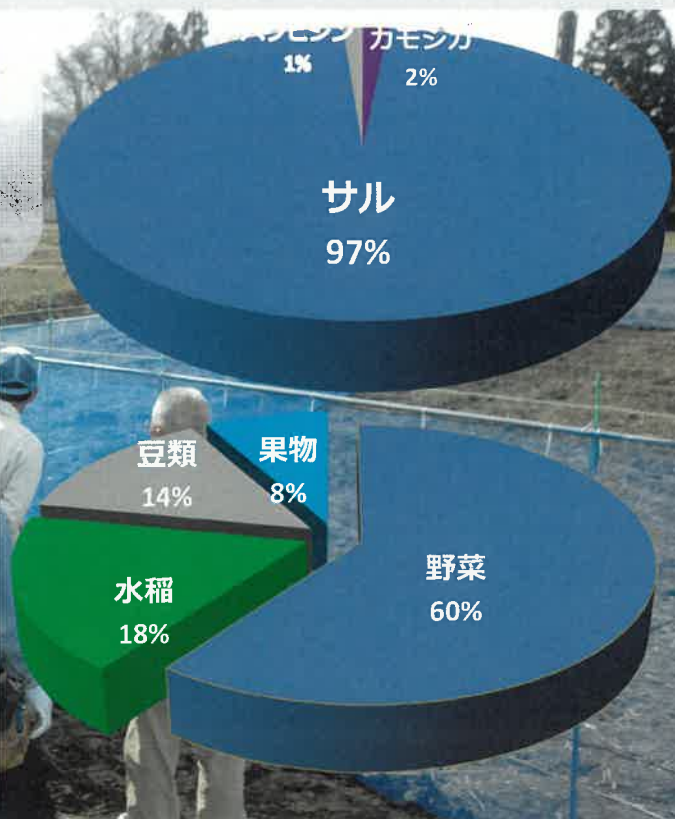
被害面積 0.8ha

主な被害作物

**野菜
ナス、キュウリ**

**果樹
カキ、アケビ**

**豆・穀類
大豆**



次の問題

・柿の木の伐採で・・・

高齢者の反対（先祖伝来の木は切るな）

農村風景が失われる（ますます地域が寂しくなる）

・作物はできるが、続ける必要もない

スーパーで買った方が安い

高齢化で続けられない、後継者もない

誰のために、何のために対策をするのか

17

放置果樹対策（活用）

学生と柿もぎ



学童と干し柿づくり



地区住民が若い世代に地域のことを伝える
伝統や文化の継承と地域への愛着を深める

18

放置果樹対策（活用）

ドライフルーツ（干し柿）の配布



地域の高齢者や福祉施設に毎年配布

⇒反対していた高齢者も対策を応援しだした

自分のためだった鳥獣対策が、他者の喜びへ
鳥獣対策が、地域振興や農福連携へと発展

19

地域や農地への価値づけ

学生との共同圃場



学生と協働で地域づくり



- ・ 農業への価値づけ（ストーリー性）
学生と一緒に作った、学生に食べさせたい
- ・ 協働により、学生にも地域への愛着を持ってもらう

20

地域の自立と助け合い

みんなで地域を学ぶ / ウハウや技術は自ら提供



本当に守るものは何か
「感謝」と「お互い様」

21

山上地区の対策の目的

鳥獣被害の解消をとあして

地域に愛着をもち、地域の将来を考
える人材を育成すること

そして、

持続的に地域環境や農業を維持して
いくこと

22

ご静聴ありがとうございました

